

設問1

感染症法における分類(令和5年5月8日改正)における定義で誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	一類: 感染力、り患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
A2	二類: 感染力、り患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
A3	三類: 感染力やり患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないものの、特定の職業に就業することにより感染症の集団発生を起こしうる感染症
A4	四類: 人への伝染はないが、動物、飲食物などの物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれのある感染症
A5	五類: 国が感染症発生動向調査を行い、その結果に基づき必要な情報を国民や医療関係者などに提供・公開していくことによって、発生・拡大を防止すべき感染症

正解 A4

人から人への伝染はほとんどないが、動物、飲食物などの物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれのある感染症である。

設問2

感染症法における分類一覧(令和5年5月8日改正)において誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	一類: エボラ出血熱
A2	二類: 新型コロナウイルス感染症
A3	三類: コレラ
A4	四類: マラリア
A5	五類: 麻疹

正解 A2

(令和5年5月8日改正)において五類となったが、発生した場合は、原則報告書の提出が必要である。

設問3

罹患すると本人の重症化リスクに加えて、周りにいる患者や職員に感染を拡げてしまう可能性が高いMMRV、麻疹(Measles: M)、風疹(Rubella: R)、水痘(Varicella: V)、ムンプス(Mumps: M)において誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	MMRVは小児期に罹患歴があれば、成人して罹患しない
A2	MMRVの抗体値は定期的に検査すべきである
A3	MMRVの感染対策として感染源、感染経路、ワクチンについて知ることが重要である
A4	成人のMMRVワクチン接種は原則自己負担である
A5	2020年7月27日に「医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版」では抗体値ではなく予防接種の回数を参考とした

正解 A1

MMRVはワクチン接種が有効とされているが、ワクチン接種しても抗体が定着するものではない。また、抗体値は小児期に罹患しても低下してくることもあり、定期的な検査が求められる。

設問4

理学療法士は業務上、患者と接触の機会が多い職種である。感染対策として誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	白衣はこまめに交換する。
A2	患者が使用したベッド、備品はこまめに拭き上げを行う
A3	換気はこまめに行う
A4	自身が体調が悪いとき(熱発など)は無理に出勤しない
A5	医療従事者は今後もコロナワクチンの接種は必須である

正解 A5

コロナワクチンに関しては副反応の問題があり令和6年4月より有料化となったが、それ以前も強制ではない。

設問5

FULL PPEの脱着の方法について最適なものはどれか、一つ選べ。

A1	(着方)消毒⇒ガウン⇒N95マスク⇒フェイスシールド⇒キャップ⇒手袋
A2	(着方)手袋⇒ガウン⇒N95マスク⇒フェイスシールド⇒キャップ⇒消毒
A3	(着方)ガウン⇒N95マスク⇒フェイスシールド⇒キャップ⇒消毒⇒手袋
A4	(脱ぎ方)手袋⇒消毒⇒キャップ⇒フェイスシールド⇒N95マスク⇒消毒
A5	(脱ぎ方)キャップ⇒フェイスシールド⇒手袋⇒N95マスク

正解 A1

着衣では、まず手指消毒を行う。また、脱衣では動作ごとに消毒を行うことが重要である。